

教育実習Ⅲ

単位数		ナンバリングコード
2		DTP393
	教員名	椿 達
	専門	教育学（教育制度、学校教育、教師教育、進路指導・キャリア教育、数学教育など）
	出身校等	上智大学理工学部数学科卒業、筑波大学大学院教育研究科修了
	現職	北海道情報大学 経営情報学部 教授
	教員名	五浦 哲也
	専門	特別支援教育、生徒指導、教育相談、カウンセリング、教育心理学
	出身校等	北海道教育大学大学院教育学研究科学校臨床専攻
	現職	北海道情報大学 経営情報学部 教授
	教員名	渡邊 仁
	専門	教育学・教育心理学・学校心理学
	出身校等	北海道大学
	現職	北海道情報大学経営情報学部 准教授
授業形態		
前期面接授業・後期面接授業		
授業範囲		試験範囲
教育実習の体験		教育実習の体験
科目の概要		
「教育実習」は、専門職としての教師を志す学生が、大学で学んだ専門分野と教職に関する知識技能などを基礎として、学校での教育活動を実際に体験するために、設けられているものです。 したがって「教育実習」は、教職課程においては、課程の全体を集約する科目として位置づけられ、本学では必修科目として履修することになっています。全体の構成は、「教育実習Ⅰ」（1単位）・「教育実習Ⅱ」（2単位：中高共通）・「教育実習Ⅲ」（中学校の教育実習で2単位）の3科目からなっています。 「教育実習Ⅲ」は、「教育実習Ⅰ」の「事前指導」が終了した後、実習校において、実際に教育活動に参加する実習です。期間は3週間です。		

授業における学修の到達目標
実際の教育活動に参加するにあたり、既習の個々の知識や技能を統合した実践的な指導力の向上と、新たな研究課題（学習課題）の発見、教職に対する適性の有無の確認などを行う。
講義の方針・計画
「教育実習」は、実習校が作成した指導計画に基づいて進められます。その間、校長先生をはじめ多くの先生から指導を受けることになります。特に、専門教科やホームルーム経営については、担当する先生から全期間を通じて指導を受けることになります。 実習する内容は、学習指導・生徒指導・ホームルーム経営・教務事務・勤務のあり方・校務分掌業務・部活動指導等多岐にわたりますが、いずれも実際の教育活動に即して指導を受けることになります。 実習の形態には、実習校の先生方の教育活動を見て学ぶ「観察実習」、指導される先生の指示を受けて、教育活動の一部分を担当する「参加実習」、指導される先生の手を離れて、自らの創意工夫と責任で行う研究授業などの「応用実習」等があります。その他必要に応じて講義・説明なども入ります。 教育実習を通じて、学校の教育活動の全体の仕組みや教師の心・仕事の内容、教えることの難しさ、生徒と心が通じ合った時の喜びなど、いろいろなことを体験することになります。自分の人間的あるいは学問的な未熟さ、湧き出てくる教職への新たな意欲、職業であることの厳しさ等も実感することになります。これらは、いずれもかけがえのない貴重な体験であります。 教育実習で得る多くの経験は、実習校の多くの方々からの善意からの贈り物です。このことを自覚し、学ぶものとしての謙虚な心を持ち、何事にも積極的に取り組む心構えが求められます。 【レポート課題】 実習内容を整理して「教育実習レポート」（A4版40字×30行、3枚程度（下記①～③について各1枚程度））にまとめる。 ①学習指導について（苦労したこと・工夫したこと、学んだことなど） ②生徒指導について（ホームルーム（SHR,LHR）について、部活動や掃除,生徒とのコミュニケーション等で苦労したこと・工夫したこと、学んだことなど） ③教育実習前の「自分にとって、これから解決すべき課題と教育実習に向けての決意」について（教師の日々の仕事を観察・経験して学んだことを踏まえて）の振り返り ※実習終了後に「教育実習レポート」を大学に提出してください。 ※教育実習レポートの内容や分量に不足がある場合は、再提出することになります。 ※「教育実習日誌」は、教育実習校に提出してください。
準備学習
教育実習Ⅰの事前指導で学習した映像等を視聴し、教育実習の準備をする。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法
教育実習について、疑問や質問がある場合にはその都度、回答します。
成績評価の方法およびその基準
その他：100%（教育実習日誌・出席簿や評価表・レポート課題等、総合的に評価する。）
教科書
「教育実習Ⅰ」に同じ。
参考書
「教育実習Ⅰ」に同じ。
その他
特になし

試験期間
試験実施なし
学習プリント
なし
教職科目
中学数学 5 の 1 （必修）
関連受講科目
教育実習Ⅰ
担当教員の実務経験
椿 達 1986年から2015年まで29年間、北海道立高校で数学の教員（2011年から教頭）の経験が在り、教師を目指す学生たちの教職の土台となるような実践的な授業づくりに努めている。 五浦 哲也 1985年から31年間、京都市及び北海道の公立小中学校で教員経験がある。教務部や研修部及び教育実習生の担当経験を活かし、教育実習を通して学生が主体的かつ深い学びができるよう実践に即した授業づくりに努めている。 渡邊 仁 2004年から2021年まで、北海道の公立高校教員としての実務経験がある。また、定時制高校での勤務において、暴力行為・停学・不登校・中退・自傷行為・虐待事案等の様々な生徒指導上の問題への対応を行ってきた。さらに、高校教員として勤務しながら教育心理学に関わる研究を行い、そこで得た知見を教育現場にフィードバックし、日々生徒と向き合っていた。授業ではこれらの経験を生かした実践的・理論的な授業になるように努めている。